

熊 事 研 会 報

号外

平成 22 年 8 月 9 日

発行人 熊本県学校事務研究協議会

会長 宮本 和明

編集代表 研究部長 平木 雅万

〒869-4402 八代市泉町栗木 5866

TEL0965(67)2029 FAX0965(67)2027



訃報

すでにご存知のことと思われませんが、玉名郡和水町立菊水西小学校 主任事務職員 上田聡子先生が、去る、平成22年7月9日早朝、ご病気によりお亡くなりになりました。突然の悲しい知らせに心よりお悔やみ申し上げます。

ここに、上田聡子先生のご逝去を悼み、在りし日のお姿を偲んで、会長及び上田先生と親しくされていたお二人の方からお別れの手紙をお預かりいたしましたので掲載させていただきます。

「上田聡子先生のご逝去を悼んで」

上田聡子先生のご訃報をお聞きした時、ピンときませんでした。最近の状況を知らなかった私には、先生はまだまだお若く、今後のご活躍が期待される方だただけに、お亡くなりになるとは思いもせず、まさかとの思いでいっぱいでした。思い浮かぶのは、元気いっぱい仕事熱心なお姿だけです。お聞きしたところによると、今年1月から闘病生活をなさっていた、そして最後は安らかであったとのこと。唯々、心からご冥福をお祈りするばかりです。

人間は生まれるだけで奇跡といわれています。この世に奇跡の生を受け、精一杯天寿を全うして、人間に見えない次の宇宙へと旅立つ。その無情の世界に私たちも生きているのですが、天寿と言ってしまうにはあまりにも早すぎます。

私事ですが、姉が先生と同じ年代の頃に他界しています。その当時の、言葉にならないやりきれなさや父母の姿を思い返せば、ご本人のみならず、ご家族のご心境いかばかりかと拝察申し上げます。

上田先生。先生の学校に対する思いや学校事務に対する情熱は私たち一人一人の胸の中で生き続けることでしょう。今後会員一同その意志を受け継ぎ、精一杯、目の前にいる児童生徒の豊かな育ちのために頑張ることをお誓い申し上げて、お別れの言葉とさせていただきます。名残は尽きませんが、どうぞ、安らかにお眠りください。

熊本県学校事務研究協議会 会長 宮本和明

「聡子ちゃん さようなら」

7月9日朝、あなたの死を知らせる突然の訃報に本当に驚きました。

夏休みに入れば、幾度となくあなたの顔を見に行けるからと連絡をした矢先ただだけに本当に信じられませんでした。4月以降転勤もあってなかなか見舞いに行けなかった自分を腹立たしく、悔しく、あなたに「本当にごめんね。」という気持ちでいっぱいになりました。1月下旬に見舞った折、「夕食がどうも入らなくて。」というあなたに「体力をつけなけん、無理してでも食べて。」と無理矢理食べさせましたね。一週間後「あの後、すべてもどしたんです。」と聞いた時は、どんなにきつかったろうに、健康である私はあなたのきつさを理解しないで無理させてしまったと本当に反省しました。3週間前「2泊3日で家に帰ります。体力がないから不安だけど嬉しいです。」というメールをもらった時は少し安心しました。新しい薬にも「気力を充実させ立ち向かいたい。」と言っていたのに。常にどんな状態に置かれようとも必死で仕事への復帰を願い、仕事への情熱を燃やし続けていたのに、残念でなりません。でも一番残念なのはあなたですよ。

今回の入院の前、仕事を片付けなければと必死でがんばっていたあなた、体調悪いのに夜遅くまで仕事をしていたあなた、「共同実施での周囲の先生方にお世話になるんです。」というあなたに何の手伝いもできずに申し訳なかったと今も反省しています。

聡子ちゃん、棺の中のあなたの顔は穏やかでした。病魔と必死に闘い、仕事に情熱を燃やし38年の生涯を走り続けましたね。もう頑張らなくていいですよ。ゆっくりして下さい。でも眼鏡をちょっとずらして一生懸命話しをするあなたと会えないのは寂しくてしかたありません。健康のありがたさを感じながら仕事をしたかったあなたの分まで頑張るよ。

玉名市立築山小学校 久保田洋子

「拝啓、上田聡子さま」

「また、電波少年（アポなしお見舞い）行くからね」

「いつでも、電波少年待ってるよ」

こう交わしたメールが最後になってしまったね。

新たな抗がん剤の点滴治療が始まって半月が過ぎ、どうしているかなあ・・・と思った矢先の訃報、こんなに早く逝ってしまうなんて思わなかったよ。「電波少年」の約束、果たせなくて本当にごめんね。

上田さんとの出会いは、20年前の採用試験の時だったね。お互い、高校の制服を着て。

先に面接を終えた上田さんに「ねえ、面接で何聞かれた？」と話したのが最初でした。そして採用後、天草総合庁舎で一緒に辞令をもらい、再配でも同じ玉名市の小学校となり、縁があるんだねって話していたよね。

20代の頃は、年休で宮崎県の事務研大会へ旅行を兼ねて出かけたこともあったよね。

研究会では「せっかく宮崎まで来たんだから、何か一言しゃべろうか」って二人で発言

したり、懇親会では沖縄の方にだまされて泡盛飲まされたり、高千穂では夜神楽を見たりと、今思えば”若さ”を武器に無茶なこともしたよね。

誠実で、こつこつと努力を惜しまない性格の上田さんのことだから、体調が思わしくな
いときも、無理をしていませんでしたか？最後のお見舞いとなってしまった6月12日の
時も、一生懸命体を起こして、学校のこと・事務研のこと・家族のこと・・・と話したよ
ね。読書が好きで、小説や少年マンガがベッド周りにいつも置いてあったから、ちょっと
気分を変えて「またまたぶたのたね」の絵本とうちの娘が摘んできた四つ葉のクローバー
をしおりにして渡したら、すごく喜んでくれて・・・。

でもね、私知っていたんだよ。「藤井さんは大事な人だから、心配かけたくない」って周
りに話していたのを。そんな水くさいこと言わずに、もっといっぱい思いを吐き出して
くれてよかったのに。きつい思いをため込まず、ぶつけてくれてよかったのに。きっと、放
射線治療や抗がん剤の点滴も、弱音一つ吐かずに、立ち向かって行ったんだよね。

今年は採用から20年目のアニバーサリー・イヤー。記念に、元気になったら、また厄
払いで出かけた阿蘇白水龍神権現へ行こうって話していたのに、叶わないものとなって
しまいました。これからも、お互いにキャリアを重ねて、支え合っていけるものと思ってい
たから、まだ事実を受け入れられずにいます。逝ってしまうの、早すぎるよ。

こんな形で手紙を書くことになるなんて思いもしなかったけど、つらい治療から解放さ
れて、少し楽になれましたか？

思い出の品々を見ていると、涙があふれてくるけれど、上田さんの思いを忘れずに、私
はしっかり生きていくからね。これからの事務職員生活、決して楽なものではないだろう
けど、格好悪くても、這いつくばってでも、この仕事にしがみついていくから。どうか、
これからも見守っていてください。

たくさんの思い出を、本当にありがとう。

またいつか、絶対に会おうね。

玉名市立横島小学校 藤井 優子

心よりご冥福をお祈りいたします。